

◇基本方針ならびに重点事項

陶芸の森は、滋賀県の伝統文化であり主要な地域産業である信楽焼をベースに、「陶芸文化創造の世界的拠点」となることを目指し、自然の中で創造と遊び、文化と産業が一体となった多様な機能をもつ公園として、また陶芸館や創作研修館、信楽産業展示館の3つの施設の運営を通じて県民の陶芸に対する理解と親しみを深め、広く陶芸に関する交流の場として積極的な事業の展開を図り、陶器産業の振興と陶芸文化の向上に努めた。

令和元年度は、県および甲賀市から第3期の指定管理の4年目として、中期経営計画（第Ⅲ期）に基づき、県、甲賀市と連携して引き続き施設の適切な運営管理に努めた。また、アーティスト・イン・レジデンス事業において、文化庁の補助金を得て、海外のレジデンス機関との作家の相互派遣や国内のレジデンス機関と連携した研究会の開催など、人的な交流を推進した。また、まちなか交流拠点「FUJIKI」を地域連携拠点として活用して、レジデンスアーティストの展覧会の開催や、運営委員会を通じたスペースの貸出等を行うことで、地域の活性化につなげる取組を実施した。

加えて、NHK朝の連続テレビ小説「スカーレット」の放映にあわせ、女性陶芸家の作品展示や写真展、対話の森でのトークショーを実施するなどにより、陶芸の森への誘客やまちなか散策の一助とした。このことにより、信楽焼や信楽地域の魅力を多くの方々を知っていただけた。

第1 県民に親しまれる施設運営に関する事業

1 公園の機能の充実

太陽の広場や星の広場など人々が自由に憩い楽しめるよう公園機能の充実を図り、また施設を安全かつ清潔に保ち、植栽の維持管理を行い、入場者に快適な空間の提供とサービスの向上に努めた。

(1) 陶芸作品の野外展示

作品の保全に努め、また新たに1作品を設置するなど、誰もが緑豊かな自然の中に点在する作品の魅力を再認識できるよう取り組んだ。

(2) 窯の広場

穴窯をはじめとする7基の薪窯で陶芸家のモチベーションをあげることができた。「しがらき学ノススメ！」では講座のバリエーションを増やし、また、来園者には活きた薪窯を見てもらうことができた。「スカーレット」放映に伴う取材の場ともなり、陶芸の森らしい園内散策のポイントを発信できた。

(3) 花咲く公園

特に、太陽の広場から陶芸館にかけての斜面をはじめ園内沿いの花木などの適切な管理を行い、花咲く公園として景観の向上に努めた。

(4) エクステリアゾーン

信楽産業展示館周辺にガーデンセットなどのエクステリア商品を設置し、信楽焼の強みとされる大型陶器を展示し来園者に実際に使用していただいた。

(5) ボランティア活動推進事業

来園者に対するサービス向上と陶芸文化の普及活動のため、展覧会展示解説、連携授業補助、園内の案内およびPR活動、園内園芸作業等ボランティアによる活動支援を受け、利用者へのきめ細かなサービスの提供に努めた。

令和元年度登録ボランティア数 37人（3月31日現在）

・FUJIKI 展覧会監視	25人	
・園内清掃	6人	
・子どもやきもの交流事業／補助	8人	
・園芸活動	4人	
・世界にひとつの宝物づくり実行委員会／補助	1人	延べ活動人数 44人

2 地域の観光拠点としての集客促進事業

滋賀県南部地域の観光拠点である陶芸の森へ多くのやきものファンや観光客に来園してもらい、信楽をより知ってもらえるよう、陶芸体験として「しがらき学ノススメ！」の開催やマーケットなど、様々な参加型のイベントを開催・誘致した。

(1) しがらき体験 しがらき学ノススメ！

陶芸の森の施設を活用して信楽焼について広く学んでもらえるよう、技法別の講座や穴窯による作品の制作など幅広いテーマを取り上げて陶芸制作講座を開催した。

ア 実技講座シリーズ

①陶芸館特別企画関連事業

積層彩磁技法で花のうつわをつくる

＜開催日＞令和元年5月26日（日）

＜講師＞高間 智子

＜参加者＞21人

色土を重ねた素地の表面を削りだす「積層彩磁」の技法で花の器を制作した。

②陶芸館特別企画関連事業

象嵌技法で花のうつわをつくる

＜開催日＞令和元年5月19日（日）

＜講師＞谷野 明夫

＜参加者＞31人

赤土に模様を彫り、白化粧をして表面を削りだすことで装飾する象嵌と撥水剤を使った象嵌技法を学んだ。

③ミニ窯をつくる

＜開催日＞令和2年3月15日（日） ※コロナウイルス感染症対策で中止

＜講師＞越沼 信介

＜参加者＞19人予定

④ラク焼の茶碗をつくる

＜開催日＞令和元年10月5日（土）

＜参加者＞22人

講師の指導のもと、ラク焼の茶碗を制作した。後日、ラク焼の焼成をおこない赤ラク、黒ラクなどの茶碗が出来上がった。

⑤ラク焼上級講座

<開催日>：令和2年3月22日（日）※コロナウイルス感染症対策で中止

<講師>奥田 英山

<参加者> 23人予定

⑥練り込みのうつわをつくる

<開催日>令和元年5月12日（日）

<講師>村田 彩

<参加者> 18人

色土を練り合わせて模様を作り出す「練り込み」の技法で皿、鉢などのうつわを制作した。

⑦野焼きでうつわをつくる 磨いてつくる私だけの…

<開催日>令和元年6月23日（日）（成形）

6月29日（土）（磨き）

7月6日（土）（焼成）

<講師>細川 政己

<参加者> 15人

5キロの粘土を使用し、壺などを制作。乾燥後磨いて作品を仕上げ、野焼きをおこなった。

イ 穴窯体験講座の開催

⑧信楽酒器をつくる 初級

<開催日>令和元年11月24日（日）

<参加者> 12人

片口、ぐい呑みなど酒器を制作した。作品は後日、穴窯で焼成した。

⑨信楽焼の干支をつくる 初級

<開催日>令和元年12月1日（日）

<参加者> 15人

令和2年の干支・子の置物を制作した。作品は後日、穴窯で焼成した。

⑩北大路魯山人関連事業 信楽水指、茶碗をつくる 中級

<開催日>令和元年10月27日（日）

<参加者> 19人

水指、茶碗などを制作した。作品は後日、穴窯で焼成した。

⑪信楽大壺をつくる 上級

<開催日>令和元年11月9日（土）、10日（日）

<参加者> 11人

大壺を2日間にわたって制作した。作品は後日、穴窯で焼成した。

○焼成 令和元年12月11日（水）～15日（日）

ウ 穴窯焼成クラスの開催

⑫穴窯焼成講座 説明会

<開催日>令和元年9月28日（土）

<参加者> 15人

○焼成はコロナウイルス対策で延期

エ 登り窯講座

⑬信楽焼のうつわをつくる 初級

<開催日>令和元年8月25日（日）

<講師>大西 左朗

<参加者> 20人

食器、茶碗など自由に作陶した。作品は後日、登り窯で焼成した。

⑭信楽壺、蹲をつくる 中級

<開催日>令和元年9月8日(日)

<講師>神山 直彦

<参加者> 8人

壺、花入、蹲などを制作した。作品は後日、登り窯で焼成した。

⑮信楽大壺をつくる 上級

<開催日>令和元年9月28日(土)、29日(日)

<講師>神崎 継春

<参加者> 14人

大壺を2日間にかけて制作した。作品は後日、登り窯で焼成した。

○焼成 令和元年10月23日(水)～27日(日)

オ 登り窯 グループ参加の部

登り窯1の間、2の間、3の間 3グループの参加

参加者をグループで募り、広く業界や県内の陶芸関係者、陶芸教室等に呼びかけて作品を集め登り窯にて焼成し、薪窯による釉薬作品焼成の技術の保存と普及を行なった。焼成は参加者に担当してもらった。

カ 団体受付

○「京都造形芸術大学通信学部 陶芸スクーリング in 信楽」

<開催日>令和元年6月29日(土)、30日(日)

<参加者> 10人

穴窯で焼成する花器などの制作及び陶芸の森、町内の見学をおこなった。

○ラク焼の茶碗をつくる

<開催日>令和元年11月12日

<参加者> 16人(北京大付属高校生)

ラク焼の茶碗を制作した。後日、ラク焼の焼成をおこない白ラクなどの茶碗が出来上がった。

(2) イベントの開催・誘致

陶芸の森が持つ広大な芝生の広場を活かし、やきものをテーマにした展示即売会(3回)を開催・誘致し、県内各地で活躍する陶芸家の個性豊かな作品を広く県内外の人々に紹介するとともに、来園者と陶芸作家・窯元の交流や消費を結びつける機会を創出することにより、作家活動を支援した。そのほか、野外ライブ、レクリエーション等を開催・誘致することにより、幅広い年齢層の方に多く来園いただいた。

ア 第13回 信楽作家市 in 陶芸の森開催

<開催日>令和元年5月2日(木)～5日(日) 4日間

<主催>信楽作家市実行委員会

<協力>公益財団法人滋賀県陶芸の森

テント 108張(昨年度:101張)

出展者 約160人(昨年度:約160人)

来園者 34,179人(昨年度:28,886人 対前年度118.3%)

5月の連休に実行委員会形式で開催した。陶芸関係者には来園者の多いゴールデンウィーク中の陶器販売の機会を、また来園者には「市」のにぎわいと雰囲気を提供することができ、好評を得た。

一方で、信楽町内の道路状況の関係もあるが、イベント開催時は交通渋滞の一因であり課題となっている。

イ 第24回 信楽セラミック・アート・マーケット in 陶芸の森の開催

<開催日>令和元年9月21日(土)～23日(祝・月) 3日間

<参加者> 18,246人(昨年度22,718人 対前年度80.3%)

陶芸家等出展：153ブース 出展者：151人

飲食関係出店：17ブース 店舗：12店舗

「作品に触れ作家に触れる」をテーマに県内に在住、在勤の陶芸をはじめとする作家が、自らが制作した質の高い作品の販売を行う、作り手と使い手の出会いの場を陶芸の森が提供した。

交通渋滞の緩和と来園者にゆっくりしていただくことを目的に、例年駅前陶器市と同一日に開催していたが、日程を異にして開催したところ、台風の影響があったことにも因るが、結果、渋滞は発生しなかった。

ウ 野外音楽イベント「SIVEL WARS 2019」の誘致

<開催日>令和元年8月11日(日)

<来園者> 2,961人

<主催> SIVEL WARS 実行委員会

8月の集客対策としてイベント誘致を行った。「地元信楽の魅力が詰まったフリーマーケットや飲食ブース、またステージではバンド演奏、キッズダンスパフォーマンスなど信楽では類を見ない野外フェスイベントとして、多くの人でにぎわい、開催が定着して入園者増につながった。

エ 2019 わくわくウォーキング in 陶芸の森開催

<開催日>令和元年12月8日(日)

<参加者> 66人

陶芸の森園内および周辺散策路を利用し、ウォーキングを通して陶芸の森の豊かな自然を満喫してもらった。また、ニュースポーツ体験を実施した。参加者には園内に設置された野外作品を鑑賞いただくなど、幅広い年齢層の参加につながった。

オ 陶芸の森開設30周年企画フォトコンテストの準備

令和2年度は、陶芸の森開設30周年目になる。また、NHK朝の連続テレビ小説「スカーレット」の舞台となったこともあり、“豊かな自然に恵まれた甲賀市信楽町”を素材として、インスタ映えする写真を一般募集することとした。

新カ しがらき森のクラフトフェスタ開催

<開催日>令和元年11月16日、17日 2日間

<参加者> 13,224人

販売：65ブース、ワークショップ：7ブース、

ステージ発表：7組

(3) 作品の貸出事業

県民に気軽に陶芸に親しんでもらえるよう、創作研修館で制作されたスタジオ・アーティストやゲスト・アーティストの作品を、公共施設等に貸出しを行い、陶芸

文化の普及向上に努めた。

6 か所 25作品

(4) 観光および集客促進のための広報活動

新聞広告をはじめとした有料媒体のみならず、WEBを中心とした無料媒体への情報提供や読者プレゼントの提供、パブリシティ、ホームページの充実をとおして、積極的な情報発信を行った。

【主な掲載・放送実績】

TV・ラジオ 8+14件 『日曜美術館アートシーン』(NHK) 他
新聞 27+37件 『京都新聞』『中日新聞』『朝日新聞』他
雑誌 30+27件
『陶説第793号』(日本陶磁協会)、『大人の初旅行』(ぴあ(株))
『月刊GALLERY9』((株)ギャラリーステーション)
『関西ウォーカー』((株)KADKKAWA)
『湖国と文化 秋号』(公財びわこ文化芸術財団)
『スカーレット Part1』『同 Part2』(NHK出版)
『女性自身』((株)光文社)、『和楽』(小学館)
『春ピア』『さんぽ旅』『美術館&博物館の旅』(ぴあ(株))
『湖国と文化 秋号』(公財びわこ文化芸術財団) 他
県広報誌 『滋賀プラスワン 9・10月号』
『COOL SHIGA』
びわこビクターズビューローによるプレスツアー 8社 12月5日

(5) 地域拠点活用事業

25周年記念事業を機に改修を行ったFUJIKI(旧陶喜陶苑)を、陶芸の森地域連携拠点として活用するため、管理運営を地域団体の若手有志を中心に陶芸の森が委嘱した委員で構成する「FUJIKI運営委員会」に委託し、陶芸の森も主体的に参画することで、地域に根差した施設運営の実施に努めた。

【展覧会】

- ・「碳烤哥吉拉佐茶」展
＜開催日＞令和元年8月17日(土)～8月25日(日)
＜主催＞公益財団法人滋賀県陶芸の森
＜出品者＞ライアン・ホイ(香港/R1陶芸の森スタジオ・アーティスト)
チェンリャン・リ(台湾/R1陶芸の森スタジオ・アーティスト)
- ・「しがらき絵画教室 第7回作品展」
＜開催日＞令和元年9月8日(日)～9月14日(土)
＜主催＞しがらき絵画教室
- ・「一やきものの花と暮らしー神山清子ー“土”と“焼き”のプリミティブ」展
＜開催日＞令和元年9月29日(日)～10月20日(日)
＜主催＞公益財団法人滋賀県陶芸の森
- ・「Shigaraki×Photography ～今、ここに生きる。多彩な信楽の風景から」展
＜開催日＞令和元年10月27日(日)～11月24日(日)
＜主催＞公益財団法人滋賀県陶芸の森

【ワークショップ】

- ・ミシガン大学“インスタ映え”ワークショップ
 <開催日>令和元年5月11日(土)
 <主 催>公益財団法人滋賀県陶芸の森
 <内 容>まちなかを散策し写真撮影後、観賞会を行う
- ・うちわ作りのワークショップ
 <開催日>令和元年6月15日(土)
 <主 催>社会福祉法人しがらき会 信楽青年寮
 <内 容>うちわの枠に和紙を貼り、絵を描いた
- ・“てのひらサイズの庭づくり”ワークショップ
 <開催日>令和元年9月7日(土)
 <主 催>社会福祉法人しがらき会 信楽青年寮
 <内 容>植木鉢に絵付けをし、植物を植えるなどしてオリジナルの“庭”を作る
- ・旭焼再現実験ワークショップ
 <開催日>令和元年9月21日(土)
 <主 催>畑中英二さん
 <内 容>旭焼の再現実験の研究発表と講義
- ・しめ飾りをつくるワークショップ
 <開催日>令和元年12月14日(土)
 <主 催>社会福祉法人しがらき会 信楽青年寮
 <内 容>既製のしめなわに信楽青年寮が作った飾りを使って、オリジナルのしめなわを作るワークショップ
- ・“こびんの中の雪景色～スノードームをつくろう～”ワークショップ
 <開催日>令和2年2月15日(土)
 <主 催>社会福祉法人しがらき会 信楽青年寮
 <内 容>空き瓶からオリジナルのスノードームを作る

【その他】

- ・ぶらり商店街さんぽ
 <開催日>平成31年4月6日(土)、4月7日(日)
 <主 催>しがらき商店街井戸端会議(長野商店街の有志団体)
 <内 容>信楽の旅館、小川亭の日本酒の会の開催と信楽の食を販売
- ・「桂優々落語会」
 <開催日>令和2年1月12日(日)
 <主 催>桂優々
 <内 容>落語家 桂優々による独演会(三席披露)

(6) 図書室の運営

陶芸に関する専門機関の図書室として、専門書など蔵書の一部を閲覧、貸し出すことで、業界や一般に広く陶芸文化の普及を図った。

(7) レストランへの施設貸与

甲賀市の許可を得た業者に信楽産業展示館内の一室をレストランとして貸与し、来園者へのサービス向上と陶芸の森への集客を図った。

(8) 信楽ホールの活用【収益事業】

県民の陶芸に対する理解と親しみを深めてもらい文化の向上を図るとともに陶芸に関する交流の場とするため、信楽ホールの活用を図った。

3 施設の管理

陶芸の森が、地域の産業振興や文化の創造、観光の拠点として、また来園者にくつろいでいただける場所となるよう、良好な状態を維持するよう心がけた。

また、台風の接近により災害への警戒と来園者の安全を考慮して休園としたほか、新型コロナウイルス感染症対策として休園をした。

- ・ 荒天による休園日：令和元年8月15日（木）、
10月12日（土）、13日（日）9:30-12:30
- ・ コロナウイルス感染症対策：令和2年2月29日（土）～3月16日（月）14日間
（陶芸館・産業展示館 ～3月24日（火）21日間）

4 陶芸の森やきもの振興基金の周知活動

「陶芸の森やきもの振興基金」への寄付金について、陶芸の森での様々な事業活動およびホームページでの周知を図った。

第2 陶芸文化の発信事業

1 展覧会開催事業

(1) ①特別企画「陶の花 FLOWERS」展

②細川正廣コレクション寄贈記念「近江のやきものの魅力」展（同時開催）

＜開催期間＞平成31年4月1日（月）～令和元年6月9日（日）（61日間）
（平成30年度より継続）

＜観覧者＞ 7,208人 （1日平均118.1人）

・ 関連事業

ギャラリートーク

＜開催日＞平成31年4月14日（日） ＜参加者＞ 23人
令和元年5月26日（日） ＜参加者＞ 21人

体験講座「象嵌技法で花の器をつくる」

＜開催日＞令和元年5月19日（日）
＜講師＞谷野明夫（本展出品作家）
＜参加者＞ 31人

体験講座「積層彩磁技法で花のうつわをつくる」

＜開催日＞令和元年5月26日（日）
＜講師＞高間智子（本展出品作家）
＜参加者＞ 21人

町内ギャラリーとの連携イベント

「信楽まちなかギャラリーで Art な花巡り」

かまーとの森「花の器大集合！お気に入りを見つけてね！」

＜開催日＞平成31年3月13日（水）～令和元年6月9日（日）

クラフト&ギャラリーきりん「花にまつわる陶のイロイロ」展

＜開催日＞平成31年3月21日（木・祝）～4月21日（日）

ギャラリー陶園「花・華・HANA」

<開催日>平成31年4月6日(土)～4月24日(水)

陶と花の企画「阿伝窯・富増彰良/Craft-K・大原拓也」展

<開催日>平成31年4月6日(土)～4月30日(火)

陶と花の企画「巖陶房」展

<開催日>令和元年5月1日(水・祝)～5月31日(金)

ギャラリー陶夢「花ものがたり」展

<開催日>令和元年5月16日(木)～6月9日(日)

①本展では、「花」を入り口にして、様々な時代とシーンから作品87点を通じて多彩な陶の表現の世界を探った。春の花咲くシーズンに合わせて開催することにより、取材誘致や集客増をはかり、また地元信楽のまちなかギャラリーとの連携イベントを開催した。

②細川正廣コレクションは、大津市在住の細川正廣氏が「滋賀の地で生み出されたやきものの歴史と素晴らしさを後世にまで伝えたい」という思いから10年間をかけて滋賀県立陶芸の森に寄贈された滋賀ゆかりの古陶磁コレクションである。本展は寄贈数が100点となったことを記念して開催した。

(2) 特別企画「交流と実験—新時代の〈やきもの〉をめざして—」展

<開催期間> 令和元年6月18日(火)～9月6日(金)(69日間)

<観覧者> 4,552人 (1日平均65.9人)

・関連事業

報道機関向け説明会

<開催日> 令和元年6月18日(火)

3社取材(京都新聞・中日新聞・あいコムこうか)

ギャラリートーク

<開催日> 令和元年7月14日(日) <参加者> 24人

<開催日> 令和元年8月11日(日) <参加者> 12人

陶芸の森では国際的な協力関係を活用した交換プログラムを展開、海外レジデンス機関に作家を送り出している。異国で彼らは何に関心をもち、どんな成果を得たのか。その足跡を作品と言葉を通して紹介。レジデンス作家が信楽で制作した作品も交え、現代の多様な“やきもの”を展望した。

(3) 特別展「北大路魯山人 古典復興—現代陶芸をひらく」

<開催期間> 令和元年9月14日(土)～12月1日(日)(67日間)

令和元年10月22日～12月1日 作品53点を入れ替え

<観覧者> 17,004人(1日平均253.7人)

・関連事業

子ども向け体験講座「お団子ねんどからお皿ができる！」

<開催日> 令和元年10月6日

<講師> 神山清子、宮本ルリ子

<参加者> 17人

体験講座「信楽水指・茶碗をつくる」(再掲)

<開催日> 令和元年10月27日

<講師> 5代高橋楽斎

＜参加者＞ 19人

ギャラリートーク

＜開催日＞令和元年10月13日

＜参加者＞ 23人

北大路魯山人の没後60年にあたり、昭和陶芸における古典復興をテーマとして昭和陶芸の巨匠と古陶磁の名品を展示した。本展は千葉市美術館、碧南市藤井達吉現代美術館（愛知県）と当館の3館による共同企画展として開催した。これにより充実した内容の展覧会となり、連日多くの陶芸ファンが来館した。

(4) 特別展「リサ・ラーソン～創作と出会いをめぐる旅」

＜開催期間＞令和2年3月25日（水）～3月31日（火）6日間

（令和2年度へ継続）

＜観覧者＞1,747人（1日平均291.2人）

リサ・ラーソン展は、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、3月21日からの開催を3日間遅らせて開催した。3月5日より信楽高原鐵道と連携し、同展のラッピング列車と共通チケットを先駆けて販売した。6日間ではあったが、昨年と比べ多数の来館があり、関連グッズの販売も好調なスタートを切った。

(5) 「“うつわ”ドラマチック」展の他館への巡回

＜展覧会名＞「“うつわ”ドラマチック」展

＜巡回先＞福井県陶芸館（福井県越前町）

＜開催期間＞令和元年10月5日（土）～12月22日（日）

＜観覧者＞4,276人

・ギャラリートーク

＜会期＞令和元年11月16日

＜聴講者＞ 25人

昨年の岩手県立美術館に続いて、2会場目となった展覧会であった。この美術館は、六古窯の伝統的な産地にあり、陶芸関係者の入場も多く、発想が斬新な海外のティーポット作品が新鮮で、多数来館された学校の見学でも好評であった。充実したコレクションを他館で展覧会することで、当館の存在をアピールすることができた。

(6) 陶磁ネットワーク会議への参加

平成20年度に結成された県立8館の陶芸専門美術館による「陶磁ネットワーク会議」は、加盟館同士の交流や情報交換を進め、共同企画展の開催、共同研究、共同広報、各館所蔵品の相互利用、緊急時の協力体制の強化などを目的としている。2019年度は、岐阜県現代陶芸美術館での開催に参加した。

(7) 収蔵品収集（管理）事業

陶芸館では質の高い収蔵品収集に努めるため、作品についての情報収集や調査研究を行っている。本年度の収蔵品収集では、収蔵品収集審査会や価格評価委員会での審議を行い、購入作品8点、寄付作品24点を収集した。そして、継続して収蔵品（収蔵庫）の点検整理作業を実施し、作品の有効活用と保存環境の整備に努めた。

(8) 陶芸館ギャラリー企画展

ア 「陶芸館・新収蔵品展の逸品」展

＜開催期間＞平成31年4月1日（月）～4月14日（日）（平成30年度より継続）

＜入館者数＞2,310人

イ アーティスト・イン・レジデンス企画「大石早矢香—Binary—」展

＜開催期間＞平成31年4月20日（土）～6月9日（日）

＜入館者数＞11,593人

アーティスト・トーク

＜開催日＞平成31年4月20日（土）

＜講師＞大石早矢香氏

＜観覧者＞50人

ウ 特別企画「交流と実験」展—第二会場「田中哲也—HIBIKI—」展

＜開催期間＞令和元年6月18日（火）～7月7日（日）

＜入館者数＞1,784人

エ 「子どもたちの土の造形展」展

＜開催期間＞令和元年7月13日（土）～8月25日（日）

＜入館者数＞4,782人

オ 「Shigaraki × Photography—今ここに生きる。多彩な信楽の風景から—」／ 作品展示「巧妙に炎を操る神山清子 土と炎がつくる景～信楽の薪窯に挑んだ女流作家」

＜開催期間＞令和2年3月25日（水）～3月31日（火）

＜入館者数＞3,983人

(9) 博物館実習

＜実施期間＞令和元年8月20日（火）～23日（金） 4日間 2名

陶芸館では平成7年度から関西圏の大学を中心に、博物館学芸員資格の取得を目指す学生を受け入れている。展覧会と普及啓発について講義、また作品の取扱いと梱包や調書の作成等、実物資料を扱う実技演習を行った。

(10) カタログ販売

これまでの特別展等の展覧会カタログをミュージアムショップで販売した。

(11) 展覧会監視警備

展覧会開催期間中の火災や盗難、事故等を防止するとともに、施設物品の保全、展覧会業務の円滑な運営を図るための人的監視業務、魅力的な美術館づくりのためにミュージアムショップの物品販売業務を行った。

(12) 奈良県立美術館・安堵町連携展示への協力

憲吉が訪ねたぬくもりのある焼物—受け継がれてゆく「匠の技と心」

＜開催期間＞令和元年6月29日（土）～9月1日（日） 56日間

（開会式に館長松井・専門学芸員鈎出席）

＜観覧者＞約15,500名

2 創作事業（アーティスト・イン・レジデンス事業（AIR事業））

やきものの産地である信楽でレジデンス事業を行っているメリットを最大限に、そし

て双方向に活かし、やきもの産地特有の伝統的な要素と現代のトレンドとの交流を活発化させるよう努めた。

(1)スタジオ・アーティストの受入 59人(延べ64回)

日本-13人(16人)、アメリカ-9人(10人)、イラク-1人、スウェーデン-2人、オランダ-2人、シンガポール-1人、オーストラリア-1人、ベルギー-1人、カナダ-3人、中国-5人、台湾-3人(4人)、フランス-4人、香港-4人、フィンランド-1人、韓国-5人、イギリス-2人、コロンビア-1人、ニュージーランド-1人

マーティン・ガイガー・ホ(アメリカ、4/2-5/1)
シェニアル・アルガラッド(イラク、4/3-4/30)
キース・エクスタム(アメリカ、4/3-5/20)
松永圭太(日本4/1-5/30)
エック・オスカー(スウェーデン、4/1-4/20)
レベッカ・ラースドッター(スウェーデン、4/1-4/20)
今野朋子(日本、4/16-6/20、8/29-9/24)
橋本知成(日本、4/1-5/31、9/1-3/31(次年度に継続))
モナ・アリ(カナダ、4/25-6/30)
マリアンヌ・デ・フォークト(オランダ、4/16-5/30)
小出ナオキ(日本、5/1-6/30)
ネルソン・リン(シンガポール、5/11-6/29)
浜名一憲(日本、5/10-5/28、10/22-11/15)
シェン・ティン(中国、6/4-6/30)
田島弘庸(アメリカ、5/28-6/13、11/19-11/20)
ロキサンヌ・ジャクソン(アメリカ、6/1-6/29)
リ・ツァイユ(台湾、5/31-8/17、9/15-10/31)
ベアトリス・トレパット(フランス、6/1-7/30)
岩村遠(日本、6/2-3/31(次年度に継続))
石山哲也(日本、6/1-9/8)
ライアン・ホイ(香港バプティスト大学からの受入、香港、6/4-9/1)
リ・チェンリャン(台湾文化センターからの受入、台湾、6/4-8/30)
ミリアム・グレー(ベルギー、7/7-8/27)
ユージン・ヒャン(韓国、7/6-8/29)
長谷川泰子(日本、7/21-9/1)
ヘミッシュ・ジャクソン(イギリス、7/2-8/4)
ワン・ポン(中国、7/2-9/2)
ユニス・ルック(カナダ、8/1-10/9)
ファビアン・メリロン(フランス、8/1-9/29)
浅井睦子(日本、8/1-11/7)
レベッカ・タム(香港、9/1-11/7)
ケイト・フィッツハリス(ニュージーランド、9/1-9/27)
チャン・ユーチェン(台湾、9/8-11/30)
オスカー・ロヴェラス(フランス、9/1-10/18)
ウェンボ・デン(中国、9/29-1/18)
エーヨン・キム(令和1年度文化庁補助事業対象アーティスト、韓国、9/7-10/6)
シン・ヌリ(韓国、10/1-11/30)
アナ・リヴェラ(コロンビア、10/1-11/28)
マライア・アディス(アメリカ、10/1-11/30)
グラント・アキヤマ(アメリカ、10/1-11/30)

イ・ユニ（2019年度文化庁補助事業対象アーティスト、韓国、10/9-12/14）
 エリン・ターコルー（フィンランドセンターから受入、フィンランド、10/16-11/23）
 キム・ハキョン（韓国、10/10-1/19）
 ステファニー・ベルトロン（フランス、11/1-12/14）
 ヴァネッサ・ロー（香港、11/16-1/14）
 ペク・ウンハ（アメリカ、11/19-1/11）
 リ・ボナ（日本、11/30-2/5）
 ペン・ピンイン（2019年度文化庁補助事業対象アーティスト、中国、12/15-1/29）
 奈良美智（日本、12/20-12/26）
 ジャレッド・ファイファー（アメリカ、12/20-1/20）
 デール・ドロッシュ（カナダ、1/4-2/4）
 ティー・クレール（オーストラリア、1/5-2/4）
 ラウ・ヤツワイ（香港、1/7-3/29）
 植松永次（日本、1/7-3/31）
 ティフ・サン（アメリカ、1/8-3/11）
 チャン・リンユン（中国、1/20-3/7）
 アマンダ・チャンバーズ（イギリス、2/1-3/31（次年度に継続））
 矢部俊一（日本、2/4-3/31（次年度に継続））
 ジーノ・アントニッセ（オランダ、2/1-3/21）

・12月5日 令和2年度スタジオ・アーティスト選考委員会

(2) ゲスト・アーティスト招聘（文化庁補助事業枠含む）

合計 8組9人（国内 5組6人、海外 3人）

・フタムラヨシミ

居住地：フランス

滞在期間：平成31年4月18日～6月6日

滞在日数：50日

概略：成形した器に磁器化粧を施し、内側からさらに押し広げることで作品表面にヒビを入れた作品の制作を行った。

・エリオット・カイザー

居住地：アメリカ

滞在期間：平成31年4月10日～5月31日

滞在日数：52日

概略：アメリカの食糧問題をテーマに作品を制作した。塑像した牛の体に長石の塊を埋め込み焼成した。石爆により長石が外に溶け出し、病的な牛となった。

・金理有

居住地：日本／神奈川県在住

滞在期間：（前年度から継続）平成31年4月1日～6月30日

令和2年2月4日～2月29日

滞在日数：計117日

概略：信楽にあるタヌキやカエルなどの石膏型を使用し、自身の作風の模様を施すことで、現代的なタヌキやカエルの置物を作り出した。

・秋永 邦洋

居住地：日本／兵庫県在住

滞在期間：令和元年7月21日～8月30日

令和2年3月24日～3月28日

滞在日数：46日

概 略：動物の骨をモチーフに制作している。大型作品のためのパーツの成形、また陶による作品展示台の制作を行った。

・竹内 真吾

居 住 地：日本／愛知県在住

滞在期間：令和元年7月23日～8月30日

令和元年10月23日～10月27日

令和元年12月24日～12月28日

令和2年3月22日～3月28日

滞在日数：計56日

概 略：素材が土であることを活かした、造形的な作品を制作した。今回の滞在では焼成によっておこる作品の崩壊を期待して窯詰めの方法や焼成方法に工夫を凝らした。

・鈴木 秀昭

居 住 地：日本／静岡県在住

滞在期間：令和元年11月6日～令和2年1月25日

滞在日数：81日

概 略：器への色絵金銀彩による絵付けの他、石膏型を使った造形的な作品制作も行った。

・バレンティナ・ベロ

居 住 地：ウクライナ

滞在期間：令和元年11月12日～12月18日

滞在日数：37日

概 略：屋外設置用の作品制作を行った。脚部、胴体、胸部の3分割で制作し、顔料による絵付けを施した。作品は将来的に屋外に設置予定。

・米谷健+JULIA

居 住 地：日本（京都府）

滞在期間：令和2年1月7日～3月31日

滞在日数：85日

概 要：服飾販売用のマネキンに陶器の小さなピースを敷き詰めて貼り付けた。社会問題、食糧問題、また滞在当時に流行した新型コロナウイルスについて言及した作品を制作した。

・12月1日 令和2年度ゲスト・アーティスト選考委員会

(3) 創作研修館オープン・スタジオ・ワークショップ、講演会等

・第1回オープン・スタジオ

<開催日>平成31年4月20日（土）

<会 場>陶芸館ギャラリー

<講 師>大石 早矢香

<参加者>50人

<内 容>ゲスト・アーティスト、大石早矢香と創作研修館スタッフによる座談会を開催した。

・ **第2回オープン・スタジオ**

＜開催日＞令和元年5月26日（日）

＜会場＞管理棟視聴覚室、創作研修館スタジオ

＜講師＞エリオット・カイザー、フタムラヨシミ

＜参加者＞32人

＜内容＞ゲスト・アーティスト、エリオット・カイザーとフタムラヨシミによるアーティスト・トークを開催した。

・ **第3回オープン・スタジオ**

＜開催日＞令和元年7月28日（日）

＜会場＞創作研修館スタジオ

＜講師＞竹内真吾、秋永邦洋

＜参加者＞12人

＜内容＞ゲスト・アーティスト、竹内真吾と秋永邦洋の作品制作現場を中心に、スタジオ内の見学を行った。

・ **第4回オープン・スタジオ**

＜開催日＞令和元年8月25日（日）

＜会場＞創作研修館スタジオ、FUJIKI

＜講師＞ライアン・ホイ、リ・チェンリャン

＜参加者＞16人

＜内容＞創作研修館でのスタジオ見学、また FUJIKI で開催されるスタジオ・アーティストの展示会にて出品作家の作品解説を行った。

・ **第5回オープン・スタジオ**

＜開催日＞令和元年10月27日（日）

＜会場＞管理棟視聴覚室、創作研修館スタジオ

＜講師＞竹内真吾

＜参加者＞21人

＜内容＞ゲスト・アーティスト、竹内真吾によるアーティスト・トークを開催した。

・ **第6回オープン・スタジオ**

＜開催日＞令和元年11月24日（日）

＜会場＞管理棟視聴覚室、創作研修館スタジオ

＜講師＞イ・ユニ

＜参加者＞7人

＜内容＞韓国陶芸財団との交換プログラムで滞在のスタジオ・アーティスト、イ・ユニによるアーティスト・トークを開催した。

・ **第7回オープン・スタジオ**

＜開催日＞令和元年12月7日（土）

＜会場＞管理棟視聴覚室、創作研修館スタジオ

＜講師＞バレンティナ・ベロ

＜参加者＞16人

＜内容＞ゲスト・アーティスト、バレンティナ・ベロによるアーティスト・トークを開催した。

・ **第8回オープン・スタジオ**

＜開催日＞令和2年1月18日（土）

<会 場>管理棟視聴覚室、創作研修館スタジオ

<講 師>鈴木秀昭

ペン・ピンイン

<参加者>25人

<内 容>ゲスト・アーティスト、鈴木秀昭と中国美術学院との交換プログラムで滞在のスタジオ・アーティスト、ペン・ピンインによるアーティスト・トークを開催した。

・アーティスト・トーク

<開催日>令和2年3月29日(日)

<会 場>創作研修館スタジオ、ギャラリー

<講 師>米谷健+JULIA

<参加者>10人(滞在作家のみ)

<内 容>ゲスト・アーティスト、米谷健+JULIAによるアーティスト・トークを開催した。

◎スタジオ・アーティスト、ゲスト・アーティストによる展覧会活動等

・金理有

「特別企画 交流と実験—新時代の〈やきもの〉をめざして—」6月18日-9月6日、滋賀県立陶芸の森陶芸館

・「HIDDEN SPOT」2月26日~3月29日、西武渋谷店オルタナティブスペース(東京都)

・松永圭太

「第14回パラミタ陶芸大賞展」6月1日-7月28日、パラミタミュージアム(三重県)

「松永圭太 展」6月7日~6月16日、プラグマタギャラリー(東京)

「±8 - A Group Exhibition of Contemporary Ceramics」7月12-9月8日、Taka Ishii gallery(香港)

・今野朋子

「TOMOKO KONNO EXHIBITION」9月11日-9月17日、岡山天満屋(岡山県)

「-驚愕-超絶の世界展」9月14日-11月10日、瀬戸内市立美術館(岡山県)

・橋本知成

「橋本知成展」5月26日-6月2日、目黒陶芸館別館(三重県)

「特別企画 交流と実験—新時代の〈やきもの〉をめざして—」6月18日-9月6日、滋賀県立陶芸の森陶芸館

「LOEWE FOUNDATION CRAFT PRIZE 2019」6月26日-7月22日、草月会館(東京都)

・モナ・アリ

「Mona Ali」6月27日、創作研修館ギャラリー

・マリアン・デ・フォークト

「Marjan De Voogd」5月28日、創作研修館ギャラリー

・ネルソン・リン

「Construction of Memorie」6月24日、陶芸の森太陽の広場

・岩村遠

- 「En Iwamura : New works」 8月31日-9月6日、Ross + Kramer gallery (アメリカ)
- 「特別企画 交流と実験—新時代の〈やきもの〉をめざして—」 6月18日-9月6日、滋賀県立陶芸の森陶芸館
- ・ヘミッシュ・ジャクソン
 - 「For the love of Old Shigaraki Pots」 8月2日-8月3日、創作研修館ギャラリー
- ・ライアン・ホイ、リ・チェンリヤン
 - 「碳烤哥吉拉佐茶」 8月17日-8月25日、FUJIKI (信楽町)
- ・ワン・ポン
 - 「王鵬展」 8月29日、創作研修館ギャラリー
- ・浅井睦子
 - 「浅井睦子 陶展」 10月30日~11月5日、京都高島屋6階工芸サロン (京都府)
- ・レベッカ・タム
 - 「Rebecca Tam」 11月2日、創作研修館ギャラリー
- ・シン・ヌリ
 - 「Shin Nuri」 11月19日~21日、創作研修館ギャラリー
- ・グラント・アキヤマ、マライア・アディス
 - 「Grant Akiyama, Mariah Addis」 11月22日~24日、創作研修館ギャラリー
- ・チャン・ユーチェン
 - 「Yu-chien Chan」 11月26日~28日、創作研修館ギャラリー
- ・ヴァネッサ・ロー
 - 「Vanessa Lo」 1月5日~10日、創作研修館ギャラリー
- ・キム・ハキョン
 - 「KIM Hakyoung」 1月12日~18日、創作研修館ギャラリー
- ・ティー・クレール
 - 「Té Claire」 2月2日~4日、創作研修館ギャラリー
- ・ラウ・ヤツワイ
 - 「記憶の中の静かな嵐」 3月17日~22日、FUJIKI (信楽町)
- ・鈴木秀昭
 - 「鈴木秀昭展」 3月5日~3月16日、亀山画廊 (静岡県)

◎その他過去に滞在したスタジオ・アーティスト等の活躍について

- ・日本伝統工芸会近畿支部展への入選
- ・韓国国際陶芸ビエンナーレへの入賞、入選
- ・台湾国際陶芸ビエンナーレへの入賞、入選
- ・ファエンツァ国際陶芸展ファイナリストへの選出
- ・LOEWE FOUNDATION CRAFT PRIZE ファイナリストへの選出

(4) 陶芸館ギャラリー、創作研修館等のギャラリー、FUJIKIを基点とした情報発信、活性化

陶芸館ギャラリー、創作研修館ギャラリーおよび陶芸の森が町内への情報発信拠

点として設置するFUJIKIを基点にアーティスト・イン・レジデンス事業の一層の情報発信、活性化を図った。上記のギャラリーを基点として滞在する作家の展覧会活動を積極的に行い、制作場所としての陶芸の森の魅力を伝え、レジデンス事業の発信に努めた。

また、Facebook等のSNSを有効活用し、展覧会情報等の広報を積極的に行った。

◎レジデンスでの滞在作家の町内での活動

「炭烤哥吉拉佐茶」

<開催日>令和元年8月17日(土)～25日(日)9日間

<会場>FUJIKI(陶芸の森地域連携拠点)

<出品者>ライアン・ホイ(香港/R1スタジオ・アーティスト/香港バプティスト大学からの受け入れ)

リ・チェンリャン(台湾/R1スタジオ・アーティスト/台湾文化センターからの受け入れ)

<内容>クロージングセレモニー/アーティスト・トーク

(5)国内外の機関との連携

ア 海外の機関との連携

海外レジデンス機関との交換プログラムの活用等により作家の相互派遣・受入をした。

(ア)文化庁補助事業「滋賀県立陶芸の森アーティスト・イン・レジデンス国際文化交流促進事業2019」海外のアーティスト・イン・レジデンス機関との交換プログラムによる、陶芸家の受入および派遣

<受け入れ>

エーヨン・キム

(韓国陶芸財団との交換プログラム、韓国)9月7日-10月7日

イ・ユニ

(韓国陶芸財団との交換プログラム、韓国)10月9日-12月14日

ペン・ピンイン

(中国美術学院との交換プログラム、中国)12月15日-1月29日

<派遣>

大石早矢香

Clayarch Museum, Museum(慶尚南道、金海)9月1日-9月26日

Korea Ceramic Foundation(京畿道、利川)9月26日-10月20日

原 菜央

Clayarch Museum, Museum(慶尚南道、金海)9月7日-9月25日

Korea Ceramic Foundation(京畿道、利川)9月26日-10月26日

(イ)海外の芸術関係団体との連携によるレジデンス・アーティストの受入

<香港バプティスト大学>

ライアン・ホイ(香港)6月4日-8月31日

<台湾文化センター>

リ・チェンリャン(台湾)6月4日-8月30日

<フィンランドセンター>

エリン・ターコルー（フィンランド）10月16日-11月23日

イ 国内の機関との連携

文化庁の補助事業として、「滋賀県立陶芸の森アーティスト・イン・レジデンス国際文化交流促進事業2019」において、2日間にわたって2019年度のアーティスト・イン・レジデンス研究会を開催（通算6回目）し、AIRについてのケース・スタディおよび参加した各機関の間で課題解決や評価について議論を深めた。

<開催日>令和元年11月29日（金）、30日（土）

<会場>女子美術大学（東京都）

<講師>イ・ユニ

<主催>公益財団法人 滋賀県陶芸の森(会場、企画立案、当日運営)

<参加機関>女子美術大学（東京都）・益子国際工芸交流館／益子陶芸美術館（栃木県）・公益財団法人 瀬戸市文化振興財団（愛知県）・公益財団法人京都市芸術文化協会(京都府)・奈良県国際芸術家村推進室(奈良県)

○第1日目

アーティスト・イン・レジデンス ケース・スタディ 参加者 約60人

「ジェニファー・リーを迎えて」

大西昌子／阿部智也（益子陶芸美術館／陶芸メッセ・益子）

「Y-AIR フィンランドケース」 辻真木子（遊工房アートスペース）

「Artist in Residency at the Shigaraki Ceramic Cultural Park (provisional)」

エリン・トゥルコルー（陶芸家、フィンランド）

「Art Networking and well being the powerful and energetic Finnish Women Artists at the Finish Artist' s Colonies」

Dr. アンナ・マリア・ウィルヤネン（フィンランドセンター ディレクター）

まとめ 滋賀県立陶芸の森 杉山道夫

○第2日目

アーティスト・イン・レジデンス研究会 参加者 約30人

テーマ「各レジデンスの紹介、AIRの評価、課題の解決に向けた意見交換」

モデレーター 菅野幸子（AIR Lab アーツ・プランナー／リサーチャー）

日沼禎子（女子美術大学教授）

- ・クリエイティブレジデンシー有田の取り組み
石澤依子（クリエイティブレジデンシー有田）
東海林慎太郎（アート・イニシアティブ・トウキョウ A. I. T.）
- ・各団体からの近況報告（成果、課題、その他情報等）
大西昌子（益子陶芸美術館／陶芸メッセ・益子）
勝谷真美（京都市芸術センター）
ベ・スジョン／屋我優人（瀬戸市新世紀工芸館）
安藤祐輝（滋賀県立陶芸の森）
- ・中国景德鎮のアーティスト・イン・レジデンスの現状について（杉山道夫）
- ・文化庁AIR共同研究・調査状況について（日沼禎子）
- ・評価指標づくりなどについての意見交換（菅野幸子）

3 「つつっこプログラム」／子どもやきもの交流事業

陶芸の森の特性を活かして、やきものに関する鑑賞教育や体験教育を様々な形で積極的に行った。学校との連携プログラムをさらに充実させ、信楽焼をはじめとした陶芸文

化の普及や陶芸の森へのリピーターを促進し、次世代に亘る陶芸の森ファンの獲得につなげるよう努めた。

(1) 「本物と出会うー総合的学習プログラム事業」と宝物事業との連携

・出張授業	110件	6,477人
・来園見学	10件	990人
・ねんどと遊ぶ	4件	205人
・研修会・研究会	2件	50人
計	126件	7,722人

世界にひとつの宝物づくり事業「世界にひとつの宝物づくり実行委員会を組織」

・来園制作	48件	2,050人
・出張授業Ⅱ	38件	533人
(特別支援学校、学級を対象)		
・特別講座	7件	162人
・研修会、研究会	9件	203人
計	102件	2,948人
合計	228件	10,670人

(2) 連携事業および世界にひとつの宝物づくり展の成果展開催

「子どもたちの土の造形展」展 【再掲】

<開催期間> 令和元年7月13日(土)～8月25日(日)

第3 産業の振興に関する事業

1 信楽産業展示館の活用

(1) 信楽産業展示館での展示

<展示期間> 令和元年10月12日(土)～11月10日(日)

<展示品> 信楽焼の蛙の置物(デザイン: 金 理有)

平成30年度に試作した加飾デザイン作品の展示をおこなった。

2 人材育成事業

(1) 信楽高等学校への支援事業

人材育成事業として、昨年同様信楽高等学校の支援を信楽高等学校地域協議会等の地域団体と連携して行い、地域での人材育成に努めた。

ア 信楽高等学校デザイン科外部研修受入れ

<実施日> 令和元年9月12日(木)

<参加者> デザイン系列3年生 16人

デザイン科絵付け実習 窯出し

<実施日> 令和元年11月28日(木)

<参加者> デザイン系列3年生 16人

イ 野焼き体験実習

<実施日> 令和元年11月19日(火)

<参加者> 1年生 52人

ウ 茶道と作陶の体験実習

<実施日> 令和元年10月29日(火)

- <参加者> 1年生 42人
エ 作家指導の実習
<実施日>令和元年11月26日(火)
<参加者> 1年生 20人
オ 登り窯焼成体験
<実施日>令和元年10月25日(金)
<参加者> セラミック系列2年生 21人

信楽高等学校支援協議会 幹事会出席 3回

(2)「対話の森」

- ア 「神山清子ー世界のやきものの旅を語る。」
<開催期間> 令和元年11月2日(土)
<観覧者> 101人
イ 「深淵なる薪窯の世界 信楽とアメリカ」
<開催期間> 令和2年1月11日(土)
<観覧者> 170人

3 「デザインコンペ がちゃがちゃ」

陶芸の森30周年を記念してミュージアムショップのガチャガチャで販売することを目的に、作品公募をおこなった。審査の上、優れた作品に賞を授与した。

- <募集期間>令和元年7月23日(火)～12月27日(金)
<応募総数>70点
<審査日> 令和2年2月6日(木)
<受賞> 金・銀・銅賞各1点 入選3点

4 まちなか芸術祭実行委員会(仮)への参画

実行委員として参画 13回

第4 企画事業

1 ミュージアムショップの運営

展覧会図録や陶芸関係書籍およびオリジナルグッズ、特別展関連商品に加え、NHK連続テレビ小説「スカーレット」関連商品など独自色のある商品販売を行った。

また、併せてインターネットを活用したオンラインショップでの商品提供や販売促進に努めた。

- ・特別企画「陶の花 FLOWERS」展(会期65日間)
- ・特別企画「交流と実験」展(会期70日間)
- ・特別展「北大路魯山人 古典復興」展(会期67日)
- ・特別展「リサ・ラーソン」(会期6日)
- ・オンライン販売
- ・巡回展(「湯呑茶碗」展、「“うつわ”ドラマチック」展)各館委託販売

販売点数 8,812点

2 その他

(1) 自動販売機の設置

来園者が自由に憩い楽しめるよう公園内に自動販売機を設置し、快適なサービスを提供した。

(2) 宿泊者用寝具の提供

創作研修館宿泊者用に寝具を提供した。

(3) 薪窯燃料の提供

穴窯や登り窯の使用者に対し、燃料を提供した。

第5 信楽焼おもてなし発信プロジェクト

信楽を舞台とした女性陶芸家を主人公に描かれるNHK連続テレビ小説「スカーレット」を機に、信楽焼を代表する女性陶芸家の一人である神山清子氏の作品などを通し、信楽焼の魅力を多くの方々に知っていただくため、写真展を開催した。

(1) 写真・作品展示

—やきものの花と暮らし—神山清子—“土”と“焼き”のプリミティブ

<会 期>令和元年9月29日(日)～10月20日(日)

<会 場>FUJIKI(陶芸の森地域連携拠点)

<来場者数>372人(10月12日、13日は台風の為、臨時休館)

(2) 作品展示

Shigaraki×Photography～今、ここに生きる。多彩な信楽の風景から パート1

<会 期>令和元年10月27日(日)～11月24日(日)

<会 場>FUJIKI(陶芸の森地域連携拠点)

<来場者数> 278人

(3) 神山清子作品、プロフィール展示

巧妙に炎を操る神山清子 土と炎がつくる景～信楽の薪窯に挑んだ女流作家

<会 期>令和元年9月14日(土)～12月1日(日)

<会 場>県立陶芸の森 陶芸館ロビー

<来場者数>17,004人

(4) 対話の森 2019【再掲】

「神山清子—世界のやきものの旅を語る」

<開催期間>令和元年11月2日(土)

<会 場>県立陶芸の森 信楽ホール

<観 覧 者>101人

「深淵なる薪窯の世界 信楽とアメリカ」

<開催期間>令和2年1月11日(土)

<会 場>県立陶芸の森 信楽ホール

<観 覧 者>170人

